

(単元)世論形成と政治参加

(本時のねらい)

2019 年 7 月に行われた第 25 回参議院議員通常選挙において, 徳島県の投票率は 38.59 %で, 全国最下位となった。なかでも, 県内の 18 歳の投票率は 30.00 %, 19 歳の投票率は 19.10 %となり, いずれも低調であった。しかし生徒は, 政治に関心がないわけではない。参議院選挙の前には, 話題の政党や, テレビで見聞きした政見放送の様子について話をしている風景も垣間見られた。また, スマートフォンを日常的に使いこなす彼らにとって, ネットニュースには非常に敏感である。

そこで, 第 1 学年の現代社会の授業において, 第 25 回参議院選挙の比例代表区について模擬投票を行った。マニフェストを読んで, 意中の政党を一党選び, 自分の投票が 1 学年全員のなかでどのように反映されるか確認した。またその政党を選んだ理由も併記することによって, 若い世代が今, 政治に何を期待しているか, 彼らの希望を実現するためにはどのようにしたらよいか探ることにした。本時を, みずからが課題を発見し, 解決する能力を育成する一助とする。

(ICT 活用方法)

実際に自分が投じた 1 票がドント方式によってどのように配分されたのか, 表の掲示(政党名はアルファベットで記載する)により確認する。また, それぞれの政党を選んだ理由のなかで, 自分が共感する項目を手元の資料でピックアップしていき, さらに何人かの生徒が電子黒板上の表記をタッチペンで示す。続いて, そういった若者の願いを実現するにはどうしたらよいか考えさせる。従来は, ドント方式の議席配分方法については, 教科書で確認するのみであった。また, 政党を選んだ理由についても, 事前に行った模擬投票における個々の意見については, 教師が口頭で紹介していた。電子黒板を使用することにより, 1 学年全員の意見を列挙することが可能であり, 生徒は幅広い意見を目にすることができる。何よりも全員が電子黒板に注視しながら展開する授業は, 同じ時間を共有しているという実感を得ることができ, 学習効果が大きい。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T 活用方法	備考
導入 5 分	○ 前時に行われた模擬投票の方法を振り返る。	○ 本時の授業への参加意識を喚起する。		
展開 4 0 分	○ A ~ M までの計 13 政党に投じられた票数を表掲示で確認する。 ○ ドント方式の議席配分方法を復習する。 ○ それぞれの政党が何	○ 1 学年全員が参加した模擬投票であることを知らせる。 ○ ドント方式が有権者の一票を反映させる方策のひとつであること	○ 教師がまとめた表を電子黒板に表示する。 ○ ドント方式の特徴をタッチペンで示す。 ○ 仮に定数を 6 とする	

	<p>議席を獲得することになるのか、表揭示で確認する。</p> <p>○それぞれの政党を選んだ理由について、1 学年全員の意見を見る。</p> <p>○前記の理由について、共感できるものをピックアップする。</p> <p>○若者が求めている政策は何か、意見を共有する。</p>	<p>を理解させる。また、参議院選挙においては政党名に加えて、立候補者の個人名を書く方法もあることを確認させる。</p> <p>○既存の政党名は挙げていないが、それぞれの政党に対して若者がどういったことを期待しているのか、積極的に意見を出させる。</p> <p>・人生 100 年時代・社会福祉・雇用政策・Wi-Fi 環境の充実・エネルギー政策など</p>	<p>と、どの政党が何人当選することになるのか、表にタッチペンで示す。</p> <p>○生徒から出た意見を電子黒板で確認する。</p> <p>○何人かの生徒が前記の理由について、電子黒板上の表記をタッチペンで示す。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>○若者の願いを実現するにはどうしたらよいか、考える。</p>	<p>○若者の政治参加を促すきっかけとする。</p>	<p>○第 25 回参議院議員通常選挙の投票率について、揭示された新聞記事を見る。</p>	

(授業の様子)



生徒のグループ活動



資料の投影



生徒の発表

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

ニュースで話題の政党が何票獲得したか、関心が高かった。投票傾向としては、実際の選挙とほぼ似たような結果となった。しかし、人口減少社会や災害対策、働き方改革など、教師が想像していた以上に、政治に関心を持っている様子が見てとれた。改善すべき点は、ドント方式の開票結果が後方の席からは見づらかったこと、またタッチペンを使用して、解決すべき問題を指摘する生徒が、照れも手伝い、せつかくの発表がよく聞こえなかった点が挙げられる。日頃より生徒の意見発表の機会を設け、大きな声で自分の意見が述べられるように指導していきたい。また、電子黒板での表示方法についても、今後、より工夫を凝らしたい。